

RPS NETWORK

日本鉄道保存協会 会報

Railway Preservation Society of Japan

2023年7月号



京急ミュージアムにて。2022年9月16日（撮影／赤羽 誠）

鉄道開業150周年を振り返って

日本鉄道保存協会事務局長 米山淳一

新橋—横浜間が開業してから2022年10月14日で我が国の鉄道はめでたく開業150周年を迎えた。比較すべくもないが日本鉄道保存協会は1990年に設立され、この記念すべき年に満32歳となった。財団法人日本ナショナルトラスト、公益財団法人交通協力会、そして2019年からは公益社団法人横浜歴史資産調査会が代表幹事団体となり、事務局を引き継いでいる。鉄道発祥の地横浜との縁を感じ、150周年記念事業を行いたいと考えるのはごく自然の成り行きだった。しかも、史実を辿れば、新橋よりも先に横浜—品川間が開業している。当時、貿易港として整備半ばの横浜はまさしく鉄道と舟運の新たな拠点だった。こうなると横浜に根を下ろした当保存協会としては、なんとでも記念事業を行いたいとの思いが高まっていった。

そこで、公益社団法人横浜歴史資産調査会と力を合わせて2020年に鉄道開業150周年記念事業委員会を設置し、身の

丈にあった事業を企画した。ところが資金の目途が立たない。そこで、関係の皆さんにお願いがあがった。文化庁に相談したところ、お陰さまで日本博の助成金を全国近代化遺産活用連絡協議会（事務局・舞鶴市）を通じていただくことができた。また、横浜市都市デザイン室と協議し、「歴史を生かしたまちづくりセミナー」を鉄道とまちづくりをテーマとした内容で開催、さらに公益社団法人日本観光振興協会主催の「ツーリズムEXPOジャパン2022」関連事業の支援を行うなど、結果として盛りだくさんの事業展開となった。

英国やドイツの様に歴史的車両のオンパレードにはほど遠いが、JR各社や鉄道事業者とは一味違い、鉄道を文化財や生活文化の視点からとらえ、様々な事業を実施したことは、関係の皆様温かいご支援、ご協力の賜物である。何よりも、改めて鉄道の歴史と文化に敬意を表すことができ、幸せである。